

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3（入山規制）が継続 >

新燃岳では、本日（14日）08時23分に噴火が再開しました。噴煙が火口縁上2,300mまで上がり、北東へ流れました。この噴火は14時20分に一時的に停止しましたが、15時05分に再び噴火し、16時現在も継続しています。

本日（14日）実施した聞き取りによる降灰調査では、新燃岳周辺から北東側の宮崎県日向市（新燃岳火口から北東約90km）までの範囲で降灰を確認しました。

13日の火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり1,400トンと多い状態です。

### 【防災上の警戒事項等】

新燃岳の火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

### 活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図1、図4 - ）

新燃岳では、昨日（13日）16時頃に連続噴火は停止した模様でしたが、本日（14日）08時23分に噴火が再開しました。灰白色の噴煙が火口縁上2,300mまで上がり、北東へ流れました。新燃岳周辺では、噴火に伴う鳴動が聞こえているとの情報がありました。08時23分に再開した噴火は14時20分に一時的に停止しましたが、15時05分に再び噴火し、16時現在も継続しています。火孔は昨日までと同様に火口内東側です。噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流は確認されていません。

#### ・降灰の状況（図2）

本日（14日）実施した聞き取りによる降灰調査では、新燃岳周辺から北東側の宮崎県日向市（新燃岳火口から北東約90km）までの範囲で降灰を確認しました。降灰が確認された場所は鹿児島県の霧島市、曾於市、宮崎県の高原町、小林市、西都市、新富町、西米良村、日向市、美郷町でした。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

・火山ガスの状況（図 3）

13 日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は 1 日あたり 1,400 トン（12 日 1,400 トン）と多い状態です。

・地震や微動の状況（図 4 - 、図 5）

火山性微動は、08 時 23 分の噴火発生後から振幅が増大し、12 時頃からやや小さくなりましたが、依然、消長を繰り返しながら継続しています。

新燃岳付近の火山性地震は、火山性微動の影響で計数できていませんが、えびの岳付近で 6 日、9 日、13 日に火山性地震が増加しました。この地震の増加した場所は、2011 年に新燃岳の噴火でマグマを供給したと推定される領域で、今後も注意深く監視を行います。この間、硫黄山の火山活動に特段の変化は認められません。

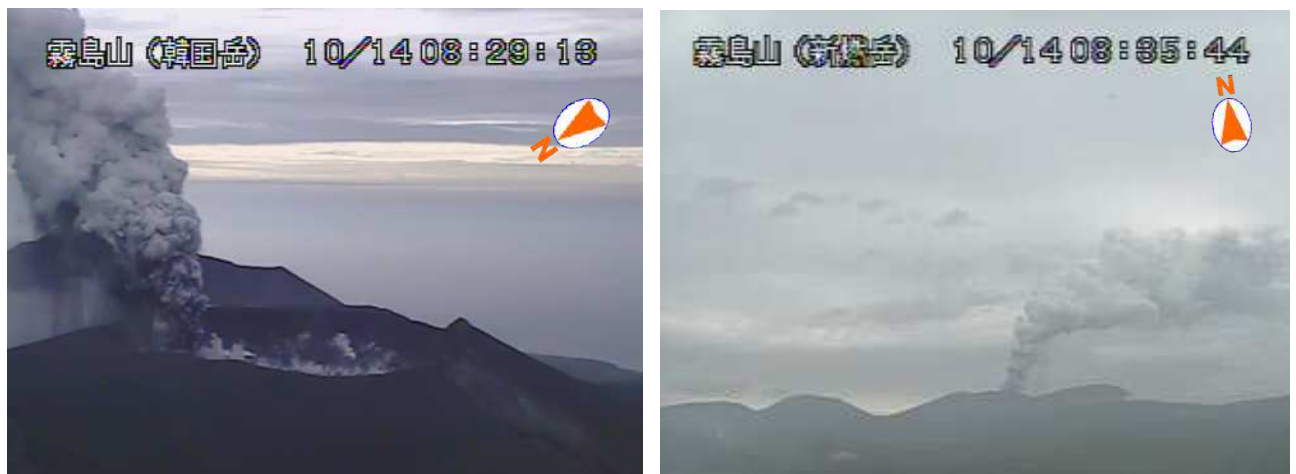


図 1 霧島山（新燃岳） 噴煙の状況（10 月 14 日）

（左：韓国岳監視カメラ 08 時 29 分、右：猪子石監視カメラ 08 時 35 分）

- ・ 08 時 23 分に噴火が再開しました。
- ・ 灰白色の噴煙が火口縁上 2,300m まで上がり、北東へ流れました。

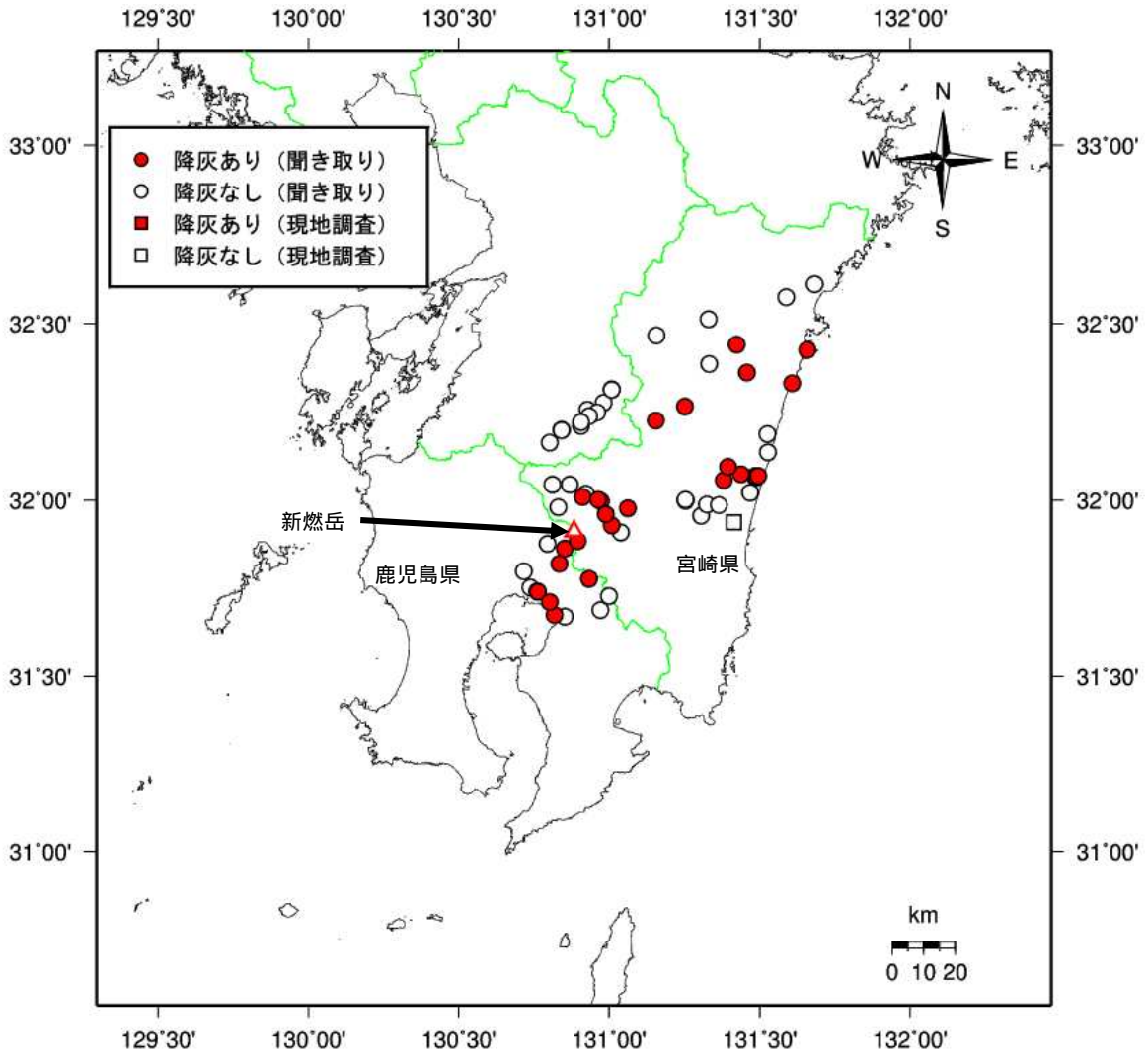


図2 霧島山（新燃岳）降灰分布図（2017年10月14日16時現在）

本日（14日）実施した聞き取りによる降灰調査では、新燃岳周辺から北東側の宮崎県日向市（新燃岳火口から北東約90km）までの範囲で降灰を確認しました。降灰が確認された場所は鹿児島県の霧島市、曾於市、宮崎県の高原町、小林市、西都市、新富町、西米良村、日向市、美郷町でした。

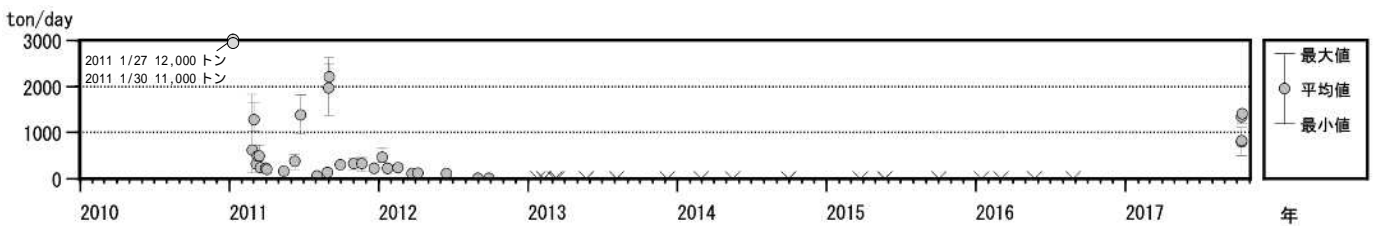


図3 霧島山（新燃岳）火山ガスの観測状況（2010年1月1日～2017年10月13日）

13日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり1,400トン（12日1,400トン）と多い状態です。  
×は検出限界未満を示す。

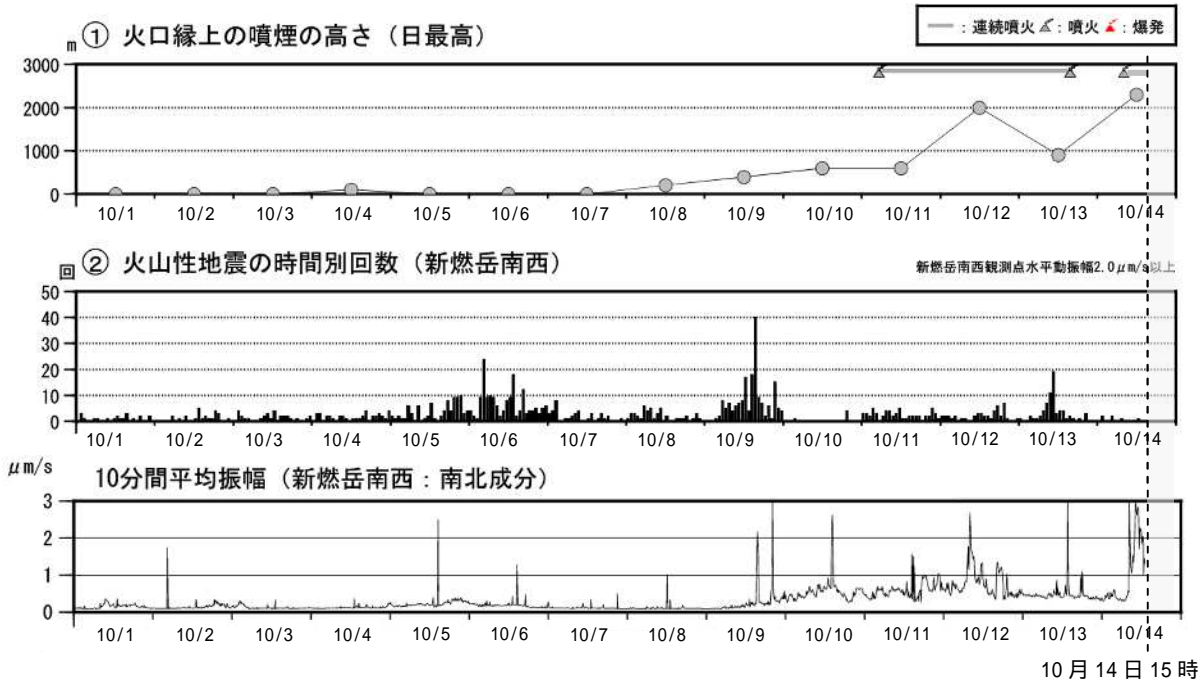


図 4 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図（2017年10月1日～10月14日15時）

- ・ 08時23分に噴火が再開し、灰白色の噴煙が火口縁上2,300mまで上がり、北東へ流れました。
- ・ 火山性微動は、08時23分の噴火発生後から振幅が増大し、12時頃からやや小さくなりましたが、依然、消長を繰り返しながら継続しています。

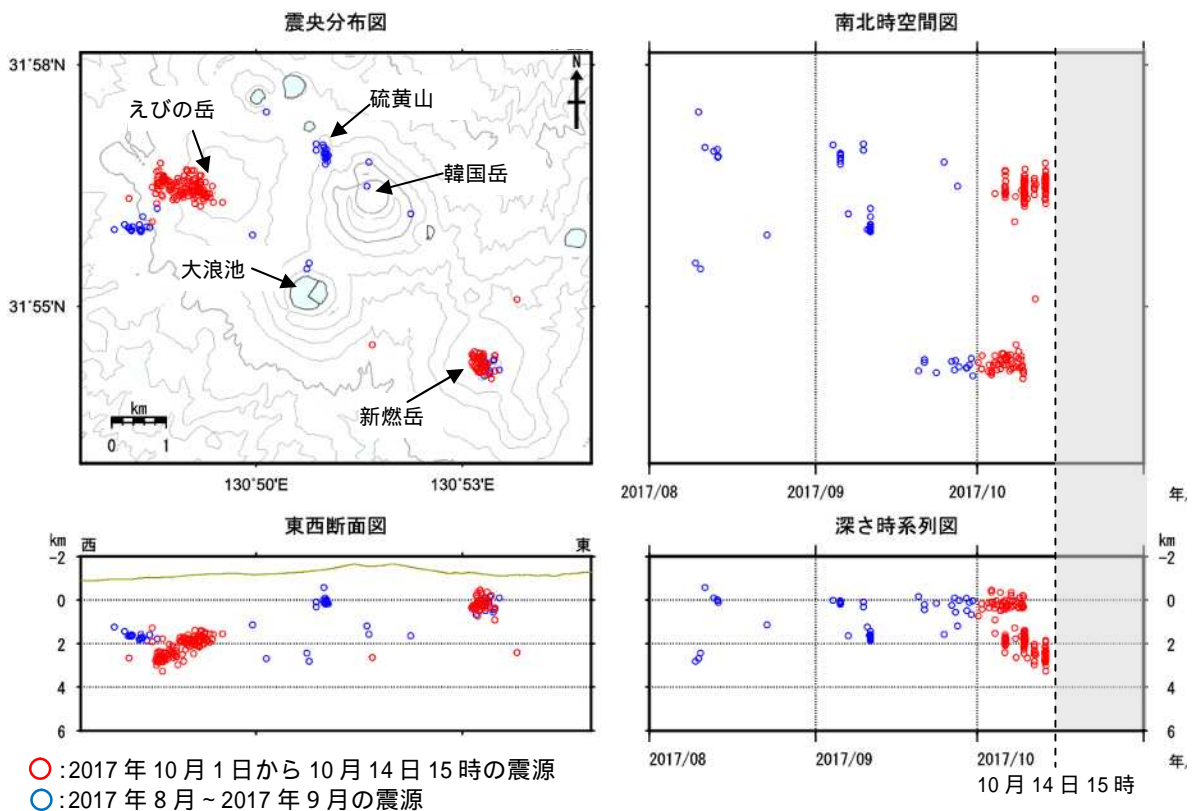


図 5 霧島山（新燃岳） 震源分布図（2017年8月～10月14日15時）

< 10月の状況 >

新燃岳付近の火山性地震は、火山性微動の影響で計数できていませんが、えびの岳付近で6日、9日、13日に火山性地震が増加しました。この地震の増加した場所は、2011年に新燃岳の噴火でマグマを供給したと推定される領域で、今後も注意深く監視を行います。

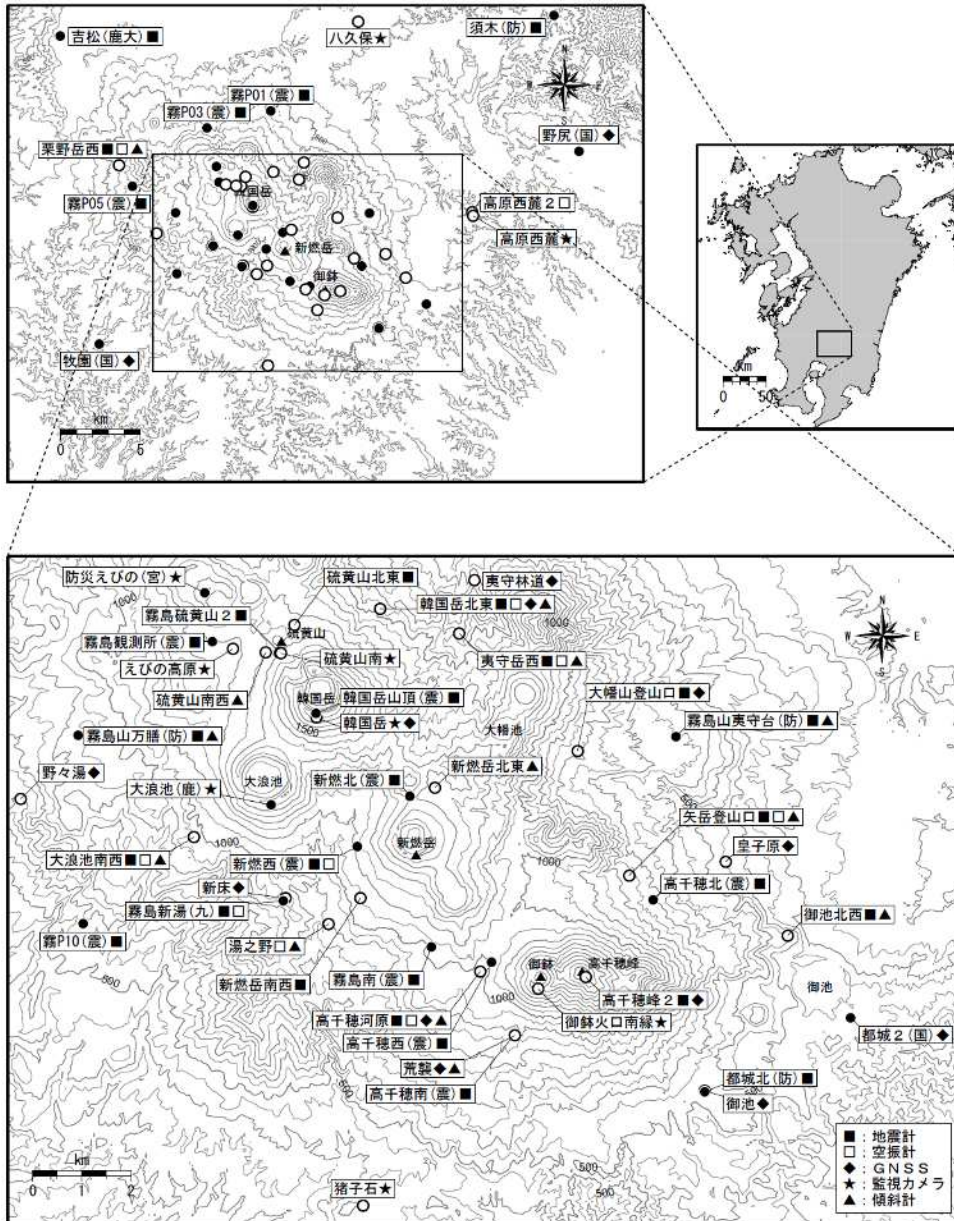


図 6 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 ( ) は気象庁、小さな黒丸 ( ) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所  
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県